

# MM総研大賞2015

発表します。次世代のスマート社会を支える製品・サービス。

MM総研は、スマート社会を支える優れたICT製品・サービスの中から「MM総研大賞」を選び表彰していますが、12回目となる「MM総研大賞2015」では、次世代のスマート社会の核となる14の製品・サービスを選定しました。

審査は「Webアンケートによる消費者調査」「企業への取材評価」を基に有識者による審査会議を実施。

製品・サービスの認知度や使いやすさ、機能性、革新性、独創性、基盤製品・サービスとしての可能性及び企業の取り組みなどを総合的に評価しています。

## スマートソリューション部門

### 光回線サービス分野

最優秀賞



2015年3月から開始した光回線サービス。NTT東日本・西日本の回線を活用し、プロバイダ料金込みで月額4,000円から利用できる。docomoの携帯電話とのセット割引で最大3,200円お得になり、家庭の通信費削減に貢献。認知度、サービス展開力で高い支持を集めた。

### 生体認証ソリューション分野

最優秀賞



NECが開発した顔認証エンジンで、米国国立標準技術研究所が主催した精度評価コンテストで世界1位を受賞。国家レベルのセキュリティから民間企業、テーマパークなどの幅広い用途で利用されている。

### クラウド・アナリティクス分野

最優秀賞



クラウド上にデータをアップすれば誰でも簡単に分析や予測を自動実行できる、SPSSの強みを活かしたデータ分析クラウドサービス。認知型コンピュータ「Watson」の対話インタフェースも継承する。全項目で他社を圧倒する高い支持を得た。

### ハイレゾオーディオ分野

最優秀賞



ソニーは、CDを上回る情報量を持つハイレゾリゾリューション・オーディオ（以下、ハイレゾ）を、高品位かつ快適に楽しめる対応機器の展開を多彩に広げている。同時に、音楽業界各社との連携を通じハイレゾ普及を積極的に推進し、ユーザーに高音質な音楽の楽しみ方を提案している。



## 第12回 MM総研大賞 受賞

※話題賞も同時受賞

SoftBank Robotics

## 「Pepper」

人とコミュニケーションを図る世界初の感情認識パーソナルロボット。最新の音声認識技術や、人の表情と声のトーンを分析して人の感情を推定できるなど、人とのコミュニケーションに特化した機能とインターフェースを備えている。日々のコミュニケーションを通じて学習し、クラウド上のAIに知識を集積することで、加速度的に進化する。Pepperは、人型のコミュニケーション機能を持ったスマートロボットが一般家庭にも浸透し始める「ロボット元年」を代表するものだけでなく、今後、ビジネスシーンでの利用拡大にも期待が高まっている。



### MVNOサービス分野

最優秀賞



KDDI (au) 回線を利用する初のMVNOとして「mineo」を提供。「必要なものを、必要なだけ」選んで利用できるサービスを全国展開。今年9月には、NTTドコモ回線を利用したプランの提供も開始予定。コンシューマー向けでは、日本初となるマルチキャリアMVNOとして期待される。

### MVNOサービス分野

最優秀賞



KDDIのグループ企業としてau回線を使用したMVNOサービスを提供。サービス開始直後より大手量販店各社で販売を行う。即時開通が可能な店舗は15年5月時点で100店舗以上。今後は、パートナー企業のブランドによる販売を拡大する計画。

### MVNEサービス分野

最優秀賞



法人再販、法人取次、個人再販、個人取次の4つを軸に、パートナー企業の業態や要望にフィットしたプログラムを提供。各企業の利用用途に応じた柔軟なサービス提供を可能にしていることが特徴。同社の高い運用技術と通信の安定性、豊富な実績が高く評価された。

## ものづくり優秀賞

### スマートデバイス分野

Galaxy S6 edge

「Galaxy S6 edge」

片側ラウンドのエッジスクリーン(Galaxy Note Edge)に続いて、世界初の両端ラウンドのエッジスクリーンを実現。狭額縁で手になじみやすいフォルムとサイズを両立。次世代スマートフォンに向けた最先端ものづくり技術の更なる展開が期待される。



### クラウドサービス基盤分野

Orchestrating a brighter world

NEC

「Micro Modular Server / 相変換冷却ユニット」

手のひらサイズの省電力・高密度サーバー「Micro Modular Server」と動力や電力を使わずに熱を奪う「相変換冷却ユニット」が、データセンター全体の電力を大幅に削減。データセンター向けの次世代クラウド基盤として導入拡大が期待される。



## 話題賞

UBER

「UBER」

2010年にサービス提供を開始したハイヤー/タクシーのオンデマンド配車サービス。58か国300都市以上でサービスを提供。毎日100万人以上が利用する。日本では2014年3月、東京において本格運用を開始。一般消費者の他、訪日外国人、法人の利用も増加している。

FUJITSU

「FUJITSU Mobile Initiative」

スマートデバイスなどモバイルの高度利用を検討する際に課題となる、活用基盤構築や業務スタイル変革、セキュリティ、ネットワークなどを7,000件の商談実績と富士通社内での実践をもとに体系化。グループ会社のソリューションも幅広く盛り込み、将来性などで高評価を得た。



TAKARA TOMY

「Robi jr. (ロビジュニア)」

Robi jr. は約1,000フレーズの言葉話して、人とコミュニケーションを図ることのできる、ともだちロボット。タカラトミーが15,000円という低価格で販売しており、玩具という域を超えて、ロボットのある家庭を当たり前にしたという点が高く評価された。

Sansan

Eight

Your business network

「Sansan / Eight」

「Sansan」と「Eight」は、名刺をスマホで撮影したりスキャンするだけで正確にデータ化。クラウドを通じ名刺情報を活用できる。法人向けSansanは社内でも名刺共有も可能。クラウド型名刺管理サービスの分野で最も支持が高く、国内外でのさらなる利用拡大が期待される。



### スマートTVサービスAWARD 2015

最優秀賞

NTTぷらら

「ひかりTV」

ひかりTV 4K



ひかりTVサービスキャラクター「ひかりカエサル」

選定理由

「ひかりTV」は国内初となる4Kによる商用VODサービスなどの先進的な取り組みにより、評価対象8項目のうち5項目で最高評価を獲得。2013年までの「映像配信サービスAWARD」と合わせて、通算5年連続の「最優秀賞」に選ばれた。

スマートTVサービスAWARD

MM総研が創設した表彰制度で、市場発展に影響を与えるスマートTVサービスを総合的に調査・評価している。

スマートTVサービスAWARD2015審査委員

審査委員はMM総研大賞審査委員の安田 浩氏、北村 森氏の両氏の他、森 祐治氏(電通コンサルティング取締役・シニアディレクター)の3名で構成された。

審査委員  
(敬称略)



審査委員長 安田 浩  
東京大学名誉教授  
東京電機大学  
特別専任教授



前川 徹  
一般社団法人コンピュータソフトウェア協会  
専務理事



藤沢 久美  
シンクタンク・ソフィアバンク  
代表



北村 森  
商品ジャーナリスト  
サイバー大学 客員教授



横森 忍  
MM総研 研究部長